

2025年度 第2回学校評価のまとめ

校長 平 井 正 朗

I 集計結果のまとめ

1月に実施した第2回学校評価の結果を公表します。回答数は、在籍471名中、生徒405名(86.0%)、保護者298名(95.2%)、教職員49名(100.0%)でした。

以下の数値(%)は、設問に対して「わからない・無回答」を除いて「(やや)あてはまる(=達成率)」と答えた割合を表します。2025年度の全体(第2回)の平均達成率は87.1%であり、内訳は生徒80.4%、保護者79.9%、教職員97.6%でした。

なお、学習指導要領の改訂、本校の事業計画等を参考に、質問事項については加筆・修正を加えています。(参考資料①参照)

高評価：90%以上、要精査：60~69%、要改善：60%未満

- 生徒
90%以上→1項目、80~89%→18項目、70~79%→11項目
60~69%→0項目、60%未満→0項目
- 高評価：進路満足度 92.5%
- 要精査：なし
- 要改善：なし

- 保護者
90%以上→2項目、80~89%→13項目、70~79%→11項目
60~69%→5項目、60%未満→0項目
- 高評価：進路満足度 94.2% カウンセリング体制 92.7%
- 要精査：私学の独自性(建学の精神) 69.3%
授業(質的向上) 67.3% SDGsと社会貢献 66.4%
授業(きめ細やかな指導) 65.5% 授業(探究活動) 62.1%
- 要改善：なし

- 教職員
90%以上→39項目、80~89%→1項目、70~79%→0項目
60~69%→0項目、60%未満→0項目
- 要精査：なし

II 成果

・学校評価全体の推移を見ると、2025年度は第1回（中間）および第2回（年度末）のいずれの評価においても、生徒・保護者・教職員のすべての評価項目で「要改善」は見られませんでした。さらに2022年度以降、年度末評価において「要改善」項目が皆無となっており、本校の教育活動が安定的に推進されていることが確認されました。

・本校が重点目標として掲げている「進路満足度100%」については、生徒および保護者の評価はいずれも高い水準を維持しており、継続的な成果が確認されました。具体的には、生徒92.5%、保護者94.2%となり、4年連続で90%以上を達成しています。タイム・マネジメント・シートを活用した自己調整学習、EdTech教材を活用した個別最適化学習、さらに「チーム学校」による進路指導体制の充実など、学習指導と進路指導を一体的に推進してきた取組が、生徒および保護者の満足度向上につながっているものと考えられます。

・「教員研修」に関する取組については、「校内研修」（OJT）および研究授業・相互授業参観・定期考査分析会・模試分析会・大学入学共通テスト勉強会・外部研修会等を通じた「資質向上」への取組がいずれも97.9%という高い評価となりました。これらの結果から、教師力および職員力の向上に向けた意識が学校組織の中で定着してきていることが確認されました。また、「危機管理」体制についても「役割分担」に関する評価が97.9%となり、学校全体としてリスク管理に対する意識が高まっていることが確認されました。

・「教員間連携」については、「教員間の相互理解と信頼関係」が93.8%となり、「教職員連携」は100%となりました。これらの結果から、本校が重視してきた教職協働の体制が学校運営の中で着実に機能していることがうかがえます。

・保護者の回答率については、第2回（年度末）において95.2%となり、2年連続で9割を超える結果となりました。回答率は5年連続で増加しており、保護者の学校教育への関心や協力姿勢が着実に高まっていることがうかがえます。

・保護者評価の項目では、「進路満足度」（94.2%）および「カウンセリング体制」（92.7%）がいずれも高い評価となりました。学校運営の透明性の確保と生徒支援体制の充実に向けた取組が、保護者の信頼につながっているものと考えられます。

III 課題と対策

・（全体を通して）学校評価の結果を見ると、生徒・保護者と教職員の評価の間には、いくつかの項目において差が見られる傾向があります。事業計画に基づく校務分掌それぞれの到達目標の達成に向けて、これまで取り組んできたワークショップ形式の研修やOJT（On the Job Training）に加え、TC（Teaching Community）の枠組みを活用しながら

ら、カリキュラム・マネジメントの視点による学校改善を推進していきます。

・(要精査項目) 授業に関しては、「きめ細やかな指導」(生徒 76.9%、保護者 65.5%、教職員 97.8%) および「授業の質的向上」(生徒 82.2%、保護者 67.3%、教職員 100%) において、生徒・保護者と教職員の評価に差が見られます。研究授業、相互授業参観、定期考査・模試分析会、大学入学共通テスト勉強会等の取組を継続するとともに、教科組織を人文系部門(英語科・国語科・社会科)、自然科学系部門(数学・理科・情報)、体育・芸術部門(体育・音楽・美術・家庭科)に整理し、英語イマージョン授業等にも対応できる体制を整備します。また、「学習指導要領」が求める教科横断的な学びに対応した授業改善を進めていきます。

・(要精査項目) 探究活動については、生徒 76.6%、保護者 62.1%、教職員 97.9%という評価結果となりました。一方で、全国約 3 万 4 千名の高校生が参加する大会においてセミファイナリストに選出されるなど、成果も見られ始めています。今後は LC (Learning Community) の枠組みを活用しながら、生徒の学習意欲を高め、探究学習の質的向上と学習習慣の定着を図っていきます。

・(要精査項目) 「SDGs と社会貢献」(生徒 79.7%、保護者 66.4%、教職員 95.8%) および「私学の独自性」における「建学の精神」(生徒 80.0%、保護者 69.3%、教職員 97.9%) については、生徒および教職員の評価は改善傾向にあるものの、保護者評価との間に差が見られます。学校行事や広報活動を通して、本校の教育理念や教育活動について積極的に情報発信を行い、理解の共有を図っていきます。

IV 総括

本校では、学校評価を教育活動の成果を確認するためのものにとどめるのではなく、教育活動の改善を継続的に推進していくための重要なマネジメントサイクルとして位置づけています。生徒・保護者・教職員による多面的な評価を通して学校の現状を客観的に把握し、その結果を次年度の教育活動に反映させることで、学校組織としての成長につなげていくことが重要であると考えています。今回の評価結果からは、本校が推進してきた「チーム学校」や「教職協働」の取組が、学校運営の中で着実に機能していることが確認されました。一方で、授業改善や探究活動、建学の精神の理解などについては、生徒・保護者と教職員の評価に差が見られる項目もあります。これらの結果を真摯に受け止めながら、カリキュラム・マネジメントの視点から教育活動を見直し、学校全体で改善を進めていくことが重要であると考えています。

今後も、本校の教育理念の実現に向けて、教職員一人ひとりの専門性を生かしながら組織としての教育力を高め、「チーム学校」として教育活動のさらなる充実を図るとともに、生徒一人ひとりの成長を支える教育活動を推進していきます。

【参考資料①】

■ 中学（1年生～3年生）

中学の全体目標と学年目標		
大テーマ [全体]		
1学期		「お蔭様で」という感謝の気持ちを忘れず、常に自分を律し、平凡なことをやり続ける姿勢を養う。
2学期		興味・関心の対象を見つけ、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を探究する姿勢を養うと同時に、自らの能力を最大限に伸ばす努力をする。
3学期		リアルな社会的問題の解決に向けて、必要とされる学びを深めながら本質を捉え、既存概念に捉われない着眼点を伸ばし、個別最適学習（アダプティブ・ラーニング）の基盤をつくる。
[学年] 小テーマ		
中1	1学期	タイムマネジメントシートを有効活用し、学習習慣が身につく。 「あ・じ・み・そ」運動を習慣化する。
	2学期	「やればできる・できた」を実感し、成功体験を積み重ねることで、自信を持って取り組む姿勢が身につく。
	3学期	年間の振り返りと次年度のPDCA
中2	1学期	タイムマネジメントシートを有効活用し、継続的な学習習慣が確立する。 「あ・じ・み・そ」を基本とした生活習慣が確立する。
	2学期	「やればできる・できた」の経験から、自ら考え、探究する態度や姿勢が身に付く。
	3学期	年間の振り返りと次年度のPDCA
中3	1学期	最上級生としてリーダーシップを発揮する。 タイムマネジメントシートを有効活用し、自己調整学習を確立する。
	2学期	「やればできる・できた」の経験から、自分の得意分野や強みを発見し、目標をもって何事にも取り組む。
	3学期	中学3ヵ年の振り返りと高1でのPDCA
[グローバル選抜探究コース] 小テーマ		
中1	1学期	英語力を確実に高めるとともに、グローバル（身近な課題）に興味を持つ姿勢を養う。
	2学期	グローバル（身近な課題）の関心を深め、地域の一員としての自覚を高める。
	3学期	グローバル（国際的な課題）の関心を深め、多様性を受け入れる態度を養う。
中2	1学期	グローバル（身近な課題）の課題を見出す能力を養う。
	2学期	グローバル（国際的な課題）の視点で、課題解決策を考えられる能力を養う。
	3学期	世界の人と協働できる力を養い、国際人としての基礎を築く。
中3	1学期	グローバル（身近な課題）とグローバル（国際的な課題）の課題解決策を考えられる能力を養う。
	2学期	グローバル（国際的な課題）の課題解決策を見出す能力を養う。
	3学期	世界の人と協働できる未来型グローバルリーダーシップの基礎を養う。
[未来探究コース] 小テーマ		
中1	1学期	学力の土台を固めるとともに、答えのない課題を考える姿勢を養う。
	2学期	答えのない課題に向き合う能力を養う。
	3学期	EdTech教材を利用し、個別最適学習ができるようになる。
中2	1学期	5教科の基礎・基本を徹底して学ぶ姿勢を養う。
	2学期	日本文化や国際社会に関心を持つ姿勢を養う。
	3学期	個別最適化学習が定着し、積み残しなく学力を伸ばす能力を養う。
中3	1学期	個別最適化学習により、5教科の基礎基本が定着している。
	2学期	SDGs（持続可能な開発目標）を意識し、答えのない課題に向き合う能力を養う。
	3学期	課題を見出し、課題解決に導くグローバルリーダーシップを養う。

■高等学校（1年生～3年生）

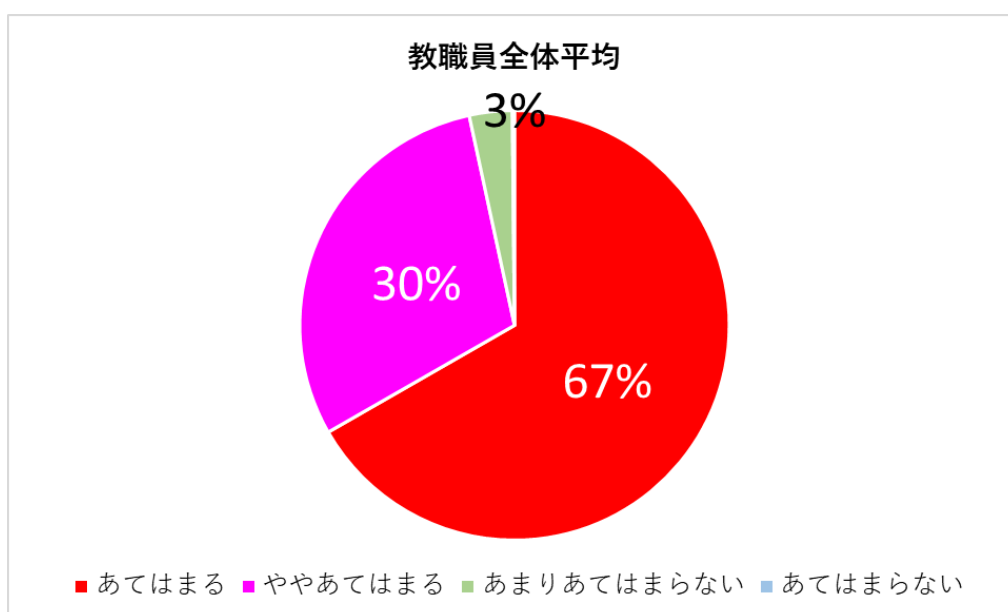
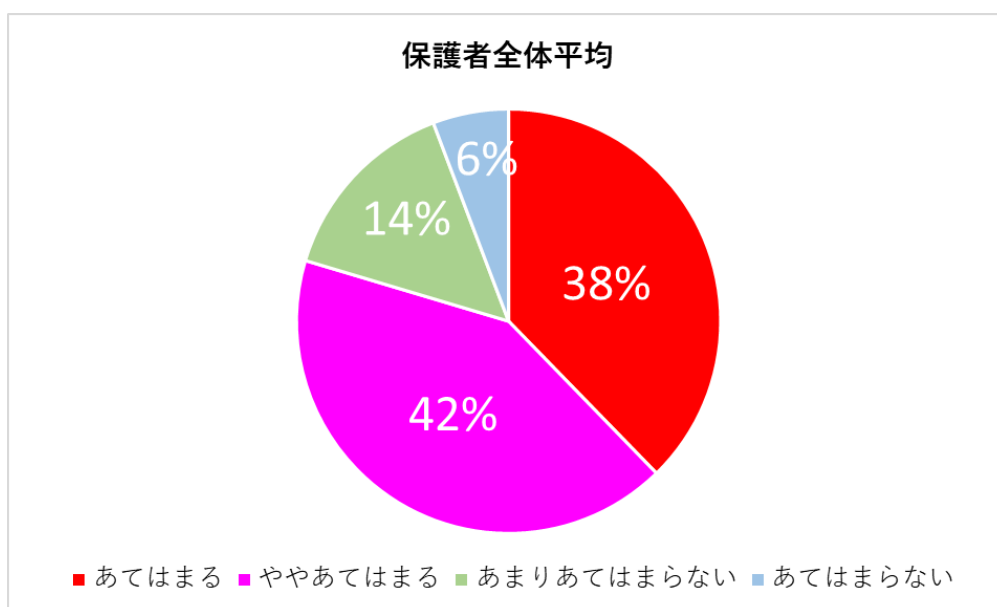
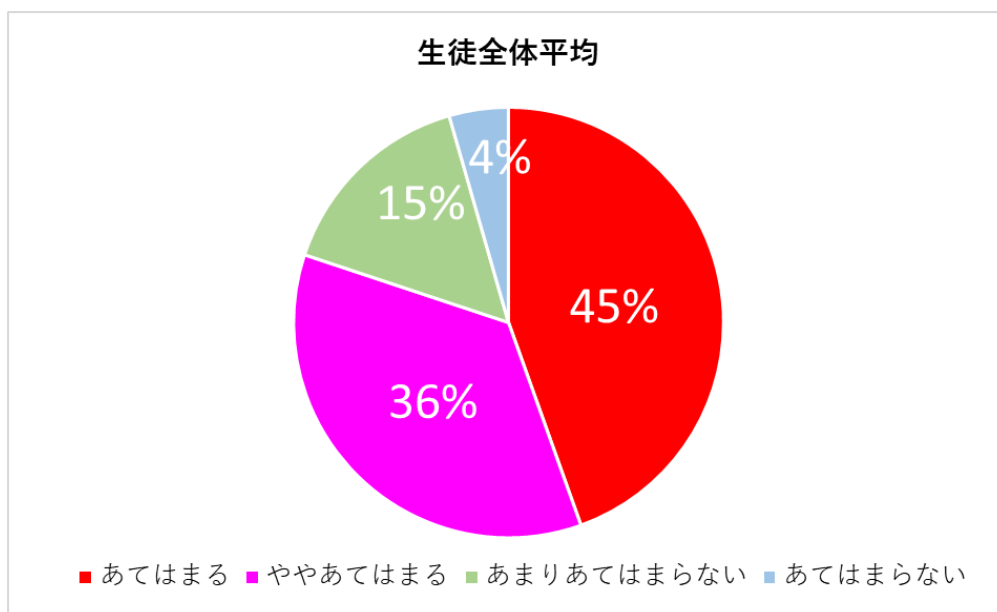
高校の全体目標と学年目標		
大テーマ [全体]		
1学期	個別最適学習（アダプティブ・ラーニング）への習熟を通じて、得意分野を最大限に伸ばし、苦手分野を積み残さない取り組みを実践する。	
2学期	“なりたい自分”になるための目標を明確にしつつ、学びのスタイルを確立し、思考力・判断力・表現力を伸ばす。同時に、物事の本質を見極め、正解は1つでないことに気づき、最適解を導くことによって豊かな人生を切り拓くたくましさを身につける。	
3学期	自分の可能性を認識するとともに、他者を尊重し、協働しながら社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となると同時に、各自が夢の実現に向けて、高い志を持ち、教育ミッション、建学の精神を具現化する	
[学年] 小テーマ		
高1	1学期	① 「あ・じ・み・そ」運動が確立される。 ② タイムマネジメントシートの有効活用により、生活習慣や学習習慣が定着する。
	2学期	① EdTech教材とリフレクションアワーを活用し、各教科の学習方法が定着する。 ② 探究活動を通じて、他者と協働しながら課題解決能力が向上する。
	3学期	① 年間の振り返りと次年度のPDCAを立案する。
[学年] 小テーマ		
高2	1学期	① 生活習慣・学習習慣の見直しと習慣化を通じて、自らの目標を明確にし、進路実現に向けた基盤を築く ② EdTech教材を活用し、自主的・自発的な学習スタイルを確立しながら、自己調整力を高める。 ③ 校則を遵守し、集団の中で責任ある言動を意識しながら、自身の役割を理解し、協働できる力を育む。
	2学期	① 目標設定を行い、自己の取り組みを振り返りながら、進路実現に向けて学習面・精神面を鍛える。 ② 他者からの学びを謙虚に受け入れ、客観的に物事を判断しながら、柔軟に軌道修正し、成長を続ける。 ③ 校則を遵守し、集団の中で責任ある言動を意識しながら、自身の役割を理解し、協働できる力を育む。
	3学期	① 1年後の自分を想像し、客観的に自己分析しながら、進路実現に向けて着実に歩みを進める。 ② 一人ひとりが“LEADER”としての資質を身につけ、最後まで諦めず挑戦し続ける姿勢を育む。 ③ 校則を遵守し、集団の中で責任ある言動を意識しながら、自身の役割を理解し、協働できる力を育む。
[学年] 小テーマ		
高3	1学期	① 学習と生活の質を向上させるため、タイムマネジメントシートで日々の課題を整理し、具体的な目標を設定する。 ② 志望する進路に向けた情報を積極的に収集し、達成度に応じた最適な学習方法を実践する。 ③ 自らの強みを把握した上で、その価値を高めるために、目的意識のある行動を心掛ける。
	2学期	① 進路選択に主体的に向き合い、自分の志望と特性を効果的に発信する能力を身につける。 ② 目標に向けた日々の行動を振り返り、実践に移す意識を持つことで新たな可能性を広げる。
	3学期	① 最後までやり遂げる意識を持ち、互いの意欲を認め合える集団を形成する。 ② 社会に貢献する自分の役割を自覚し、他者を尊重しながら敬意を持つ精神を養い、自律した人格を築いて新たな一歩を踏み出す。

[グローバル選抜探究コース] 小テーマ		
高1	1学期	5教科の基礎基本の定着と特に英語力の向上を意識した自己調整学習ができる能力を養う。
	2学期	世界の人々と協働し、国際人としての自覚を高める。
	3学期	国際人として、グローバル（国際的な課題）の課題解決ができる能力を養う。
高2	1学期	進路に向けての自己調整学習が確立している。
	2学期	グローバル（国際的な課題）の課題に対して、解決策を考える能力を養う。
	3学期	国際人として、未来型グローバルリーダーシップが発揮できる姿勢を養う。
高3	1学期	自己調整学習が確立し、目標達成に向けての基礎が定着するとともに積み残しなく学力が向上している。
	2学期	グローバル（国際的な課題）の課題に対して、最適解を導ける能力を養う。
	3学期	進路満足度100%が達成できている。
[選抜コース] 小テーマ		
高1	1学期	5教科の基礎基本の定着と個別最適化学習を実践できる能力を養う。
	2学期	グローバル（国際的な課題）に視点を向け、世界の人々と協働する姿勢を養う。
	3学期	グローバル（国際的な課題）の課題を導き出す能力を養う。
高2	1学期	進路に向けての自己調整学習が確立している。
	2学期	グローバル（国際的な課題）の課題に対して、解決策を考える能力を養う。
	3学期	未来型グローバルリーダーシップが発揮できる姿勢を養う。
高3	1学期	自己調整学習が確立し、目標達成に向けて積み残しなく学力向上している。
	2学期	グローバル（国際的な課題）の課題に対して、最適解を導ける能力を養う。
	3学期	進路満足度100%が達成できている。
[未来探究コース] 小テーマ		
高1	1学期	学力の基礎を徹底して身に付け、確実な学力を身に付ける姿勢を養う。
	2学期	答えのない課題に向き合い、最適解を見出せる能力を養う。
	3学期	個別最適化学習に意欲的に取り組む姿勢を養う。
高2	1学期	学力の基礎だけでなく、応用・発展へと段階的に学力を進めていく能力を養う。
	2学期	答えのない課題を見出し、最適解を導ける能力を養う。
	3学期	多くの人との協働を通して、よりよい解決策を考えられる能力を養う。
高3	1学期	進路に向けての個別最適化学習が確実に実践できる能力を養う。
	2学期	個別最適化学習を通して、自己調整学習が確実に実践できる能力を養う。
	3学期	進路満足度100%が達成できている。

【参考資料②】 2025年度 学校評価アンケート質問内容

観点	項目	教職員への設問	生徒への設問	保護者への設問
私学の独自性	建学の精神	1 建学の精神と教育ミッションに基づいた教育目標と方針が、教職員・生徒・保護者によく浸透している。	建学の精神「自学自習・情操陶冶」、教育ミッション「Communication(対話・伝達)・Consideration(熟慮・考察・思いやり)・Commitment(参画・貢献)」を理解している。	建学の精神「自学自習・情操陶冶」、教育ミッション「Communication(対話・伝達)・Consideration(熟慮・考察・思いやり)・Commitment(参画・貢献)」に基づいた教育活動が行われている。
	愛校心	2 在校生・卒業生は「山手ファミリー」の一員として誇りと自覚を持っている。	神戸山手の生徒としての誇りと自覚を持ち、より良い学校づくりに貢献しようと思う。	子どもは神戸山手の一員としての誇りと自覚を持ち、保護者としてもより良い学校づくりに協力しようと思う。
教育課程	学習指導要領	3 教育課程は学習指導要領に沿って作成されている。		
	教育計画	4 年間を通じた教育計画(シラバス)に従って、各教科・科目の授業が展開されている。	シラバスに従って、各教科・科目の授業が展開されている。	年間を通じた教育計画(シラバス)に従って、各教科・科目の授業が展開されている。
開かれた学校	教育活動の公開	5 教育活動について、ホームページ・各種通信・BLEND・ロイノート・ミマモメ等で、可能な範囲の情報公開されている。	ホームページ、学年だより・保健だよりなどの通信、BLEND等で、必要な情報が提供されている。	ホームページ、学年だより・保健だよりなどの通信、BLEND、ミマモメ等で、必要な情報が提供されている。
	財務関係	6 財務諸表等が公開されている。		
	授業公開	7 保護者などに対して、授業や行事が公開されている。		保護者に対して、授業や行事が公開されている。
	地域交流	8 地域の清掃やイベントへの参加活動を通して、地域住民との交流ができています。		
	外部講師の活用	9 外部講師による講演や企業との連携授業など、生徒が一般社会で活躍する人に触れて刺激を得る機会が作られている。	学校で、一般社会で活躍する人の講演を聞いたり、直接指導を受けたりする機会がある。	外部講師による講演や企業との連携授業など、生徒が一般社会で活躍する人に触れて刺激を得る機会が作られている。
	教員間連携	10 教員間の相互理解と信頼関係のもとに、教育活動が展開されている。		
連携	職員会議	11 職員会議をはじめ、学年・分掌・教科の会議は、課題検討と有用な情報交換の場として機能している。		
	教職員連携	12 教員と事務職員の相互理解と信頼関係のもとで、教育活動が展開されている。		
	保護者・卒業生連携	13 育友会・同窓会の活動が盛んで、本校の教育方針に対する保護者や卒業生の理解と協力が進んでいる。		育友会・同窓会活動が盛んで、本校の教育方針に対する保護者・卒業生の理解と協力が進んでいる。
教員研修	校内研修	14 校内研修会や効果的なOJT(On-the-Job Training)が実施され、教職員の資質向上につながっている。		
	資質向上	15 研究授業、相互授業参観、模試・考査分析会、外部研修会への参加等によって、教員の資質向上が図られている。		
危機管理	役割分担	16 事故・災害等、非常事態に処する際の役割分担が明確にされている。		
	講習・訓練	17 健康・安全についての講習、防災訓練等を通じて、生徒・教職員・保護者の防災・安全意識が高められている。	健康・安全についての講習、防災訓練、保健だより等を通じて、防災・安全意識が高まった。	健康・安全についての講習、防災訓練、保健だより等を通じて、防災・安全意識を喚起している。
	パンデミック対策	18 日常の感染予防対策を徹底しながら教育活動が行われ、必要に応じて遠隔による授業・行事が実施されている。	日常の感染防止対策を徹底しながら教育活動を実施し、必要に応じて遠隔での授業も取り入れている。	日常の感染防止対策を徹底しながら教育活動を実施し、必要に応じて遠隔での授業も取り入れている。
	個人情報	19 個人情報の管理について、十分な配慮がなされている。	個人情報の管理について、十分な配慮がなされている。	個人情報の管理について、十分な配慮がなされている。
設備施設	施設管理	20 施設管理について、日常的に点検・補修が行われ、常に適正に管理されている。	日常的に施設・設備の点検・補修が行われている。	日常的に施設・設備の点検・補修が行われている。
生徒指導	学校生活	21 生徒は学校生活を楽んでいる。	自分は学校生活を楽んでいる。	子どもは学校生活を楽んでいる。
	基本的な生活習慣	22 時間厳守・身だしなみ・挨拶・校則の遵守・整理整頓・清掃など、生徒の基本的な生活習慣の確立のための指導が行われている。	時間厳守、身だしなみ、挨拶、校則の遵守、整理整頓・清掃など、基本的な生活習慣が身についた。	子どもは、時間厳守・身だしなみ・挨拶・校則の遵守・整理整頓・清掃など、基本的な生活習慣が身につけている。(身につけてきた。)
	面談	23 面談を通して個々の生徒に寄り添い、生徒と教員の信頼関係のもとに課題が共有され、問題があれば迅速に報告されている。	担任の先生との面談の機会がたくさんあり、自分のことをよく理解して的確なアドバイスをしてくれる。	担任は、個別面談などを通して子どものことをよく理解し、適切なアドバイスをしてくれる。
	組織的対応	24 問題行動の防止に向け早期指導を行うとともに、生徒指導に組織的に対応する体制がある。	先生の指導が公平で適切であり、学校として統一されていると感じる。	指導が適切なタイミングとスピードで行われ、また学校として組織的になされていると感じる。
進路指導	意識の向上	25 生徒の適性に応じて個々の興味・関心を引き出し、個性と学年に応じた進路指導・キャリア教育が実施されている。	生徒の適性や目標に応じた進路指導をしてくれている。	生徒の適性に応じて個々の興味・関心を引き出し、個性や学年に応じた進路指導・キャリア教育が実施されている。
	情報の活用	26 生徒・保護者への説明会、外部講師による講演、大学との交流など、さまざまな進路行事を通して情報提供が行われている。	進路に関する行事をはじめ、ホームルームや学年集会、配付物や掲示物などを通して、適切な進路選択のための情報を十分に得ることができる。	進路に関する行事のほか、さまざまな方法で適切な進路選択のための情報を十分に得ることができる。
	個別指導	27 生徒の学習到達度を正確に把握し、模試・考査などの客観分析とPDCAを行わせる進路指導が実施されている。	担任の先生や教科担当の先生は、自分の学習到達度を正確に把握し、的確なアドバイスをしてくれている。	担任や教科担当者は、生徒の学習到達度を正確に把握し、的確なアドバイスをしてくれている。
授業	質的向上	28 教員は、各教科のコース別到達目標に即して、わかりやすい授業の工夫と改善を心がけている。	各教科の先生は、わかりやすい授業の工夫と改善を心がけていると思う。	子どもは、授業がよくわかり、意欲的に取り組んでいるようだ。
	きめ細やかな指導	29 生徒は学習への取り組みや到達度を振り返り、適切なアドバイスを得ている。また宿題・提出物等に対して、適切なフィードバックを得ている。	リフレクションシートで学習法や到達度について自ら振り返ることで、自律的に学習に取り組めるようになった。	子どもは、自分の学習法や到達度について自ら振り返り、自律的に学習している。(するようになった。)
	個別最適化	30 各自の目標や到達度に応じて自主的に適切な課題を選んで取り組むという、個別最適化学習の体制が整っている。	授業時間以外に、放課後・昼休み・早朝などに、いろいろな補習・講習・自由参加の学習活動が用意されている。	生徒が各自の目標や到達度に応じて、自主的に適切な課題を選んで取り組む、個別最適化学習の体制が整っている。
	探究活動	31 探究活動が生徒の興味関心・喚起し、【主体的・対話的で深い学び】が成立している。	探究活動はやりがいがあり、自分から社会の課題を解決しようとする姿勢を持つようになった。	子どもは探究活動に意欲的に取り組み、積極的に社会の課題を解決しようとする姿勢を持つようになった。
グローバル教育	グローバル教育	32 グローバル化の時代に対応した本校ならではの教育活動が実施されている。	山手では、グローバル化の時代に対応した授業やその他の教育活動が行われていると感じる。	グローバル化の時代に対応した授業やその他の教育活動が行われていると感じる。
	人権教育	33 生徒一人一人の人格が尊重されるとともに、平和を希求し人権侵害や差別に立ち向かう態度を育むような教育が行われている。	生徒の人格が尊重されていると思う。また、平和の大切さ、人権侵害や差別の問題について学ぶ機会がある。	生徒の人格が尊重されている。また、平和の大切さ、人権侵害や差別の問題について学ぶ機会がある。
	SDGsと社会貢献	34 SDGsを念頭におき、社会貢献や環境保全活動とともに、日々のごみ分別・資源回収などが実践されている。	SDGsについて理解し、社会の問題について考えるようになった。また、進んで社会貢献や環境保護活動に参加したり、日常のごみ分別なども取り組んでいる。	子どもは、SDGsを意識するようになり、社会の問題について関心を持ったり、社会貢献や環境保護活動に参加したり、日々のごみ分別などを実践している。
情報教育	情報モラル	35 情報の発信に伴う責任など、情報モラル面での教育が十分に行われている。	情報の発信に伴う責任や情報モラルについて、十分に学ぶ機会がある。	情報の発信に伴う責任など、情報モラル面での教育に十分に取り組んでいる。
その他	カウンセリング体制	36 不登校の生徒や心的問題を抱える生徒(保護者)に、カウンセラーの支援体制がある。	不登校の生徒や心的問題を抱える生徒、あるいはその保護者に対して、カウンセラーの支援体制がある。	不登校の生徒や心的問題を抱える生徒、あるいはその保護者に対して、カウンセラーの支援体制がある。
	クラブ活動	37 クラブ活動の役割を重視し、より多くの生徒が参加できるような体制が整えられている。	クラブ活動や課外講座に参加している。	クラブ活動に生徒が参加しやすく、活動しやすい体制が整っている。
	生徒会活動	38 生徒会活動が生徒主体で活発に行われ、社会に積極的に参画する意欲が育まれている。	生徒会活動が生徒主体で活発に行われていると思う。	
	読書教育	39 図書館が充実し、朝の読書・読書講演会・ピリオパトルなど、読書を促すための行事やしくみがある。	図書館が充実し、朝の読書・読書講演会・ピリオパトルなど、読書を促すための行事やしくみがある。	図書館が充実し、朝の読書・読書講演会・ピリオパトルなど、読書を促すための行事やしくみがある。
	学校行事	40 それぞれの学校行事が年間指導計画の中に位置づけられ、生徒が積極的に参加できるように工夫されている。	自分は学校行事に積極的に取り組み、楽しんで活動している。	子どもは、学校行事に積極的に取り組み、楽しんで活動している。
	進路指導(高3第2回)	41	卒業後の進路に満足している。	子どもは、卒業後の進路に満足している。

【参考資料③】 2025年度 学校評価アンケート結果（全体平均）



【参考資料④】 2025年度 第2回学校評価アンケート結果（各項目）

観点	項目	設問	対象	回答数					無回答除く A+B
				A	B	C	D	E無回答	
私学の独自性	建学の精神	1 建学の精神と教育ミッションに基づいた、教育目標と方針が、教職員・生徒・保護者によく浸透している。	生徒	176	136	65	13	11	80.0%
			保護者	67	109	60	18	22	69.3%
			教職員	24	22	1	0	2	97.9%
	愛校心	2 在校生・卒業生は「山手ファミリー」の一員として誇りと自覚を持っている。	生徒	187	136	56	11	11	82.8%
			保護者	115	115	27	7	12	87.1%
			教職員	26	22	0	0	1	100.0%
教育課程	学習指導要領	3 教育課程は学習指導要領に沿って作成されている。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	—	—	—	—	—	
			教職員	33	13	0	0	3	100.0%
	教育計画	4 年間を通じた教育計画（シラバス）に従って、各教科・科目の授業が展開されている。	生徒	157	138	62	10	34	80.4%
保護者			119	114	25	4	14	88.9%	
教職員			34	12	0	0	3	100.0%	
開かれた学校	教育活動の公開	5 教育活動について、ホームページ・各種通信・BLEND・ロイロノート・ミマモルメ等で、可能な範囲の情報が公開されている。	生徒	176	129	65	18	13	78.6%
			保護者	135	106	27	5	3	88.3%
			教職員	41	6	1	0	1	97.9%
	財務関係	6 財務諸表等が公開されている。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	—	—	—	—	—	
			教職員	25	14	3	0	7	92.9%
	授業公開	7 保護者などに対して、授業や行事が公開されている。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	119	107	34	8	8	84.3%
			教職員	41	6	1	0	1	97.9%
	地域交流	8 地域の清掃やイベントへの参加活動を通して、地域住民との交流ができています。	生徒	—	—	—	—	—	
保護者			—	—	—	—	—		
教職員			19	19	7	2	2	80.9%	
外部講師の活用	9 外部講師による講演や企業との連携授業など、生徒が一般社会で活躍する人に触れて刺激を得る機会が作られている。	生徒	168	145	62	13	13	80.7%	
		保護者	79	106	40	15	36	77.1%	
		教職員	33	14	1	0	1	97.9%	
学校経営	教員間連携	10 教員間の相互理解と信頼関係のもとに、教育活動が展開されている。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	—	—	—	—	—	
			教職員	26	19	3	0	1	93.8%
	連携	11 職員会議をはじめ、学年・分掌・教科の会議は、課題検討と有用な情報交換の場として機能している。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	—	—	—	—	—	
			教職員	34	12	1	0	2	97.9%
	教職員連携	12 教員と事務職員の相互理解と信頼関係のもとで、教育活動が展開されている。	生徒	—	—	—	—	—	
保護者			—	—	—	—	—		
教職員			30	19	0	0	0	100.0%	
保護者・卒業生連携	13 育友会・同窓会の活動が盛んで、本校の教育方針に対する保護者や卒業生の理解と協力が進んでいる。	生徒	—	—	—	—	—		
		保護者	96	103	27	9	41	84.7%	
		教職員	33	15	0	0	1	100.0%	
教員研修	校内研修	14 校内研修会や効果的なOJT（On-the-Job Training）が実施され、教職員の資質向上につながっている。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	—	—	—	—	—	
			教職員	29	17	1	0	2	97.9%
	資質向上	15 研究授業、相互授業参観、模試・考査分析会、外部研修会への参加等によって、教員の資質向上が図られている。	生徒	—	—	—	—	—	
保護者			—	—	—	—	—		
教職員			36	10	0	1	2	97.9%	
危機管理	役割分担	16 事故・災害等、非常事態に対処する際の役割分担が明確にされている。	生徒	—	—	—	—	—	
			保護者	—	—	—	—	—	
			教職員	32	14	1	0	2	97.9%
	講習・訓練	17 健康・安全についての講習、防災訓練等を通じて、生徒・教職員・保護者の防災・安全意識が高められている。	生徒	178	137	63	12	11	80.8%
			保護者	98	126	26	5	21	87.8%
			教職員	34	14	0	0	1	100.0%
	パンデミック対策	18 日常の感染予防対策を徹底しながら教育活動が行われ、必要に応じて遠隔による授業・行事が実施されている。	生徒	178	143	54	13	13	82.7%
			保護者	133	97	23	8	15	88.1%
教職員			32	15	1	0	1	97.9%	
個人情報	19 個人情報の管理について、十分な配慮がなされている。	生徒	172	126	52	21	30	80.3%	
		保護者	115	89	18	9	45	88.3%	
		教職員	32	15	2	0	0	95.9%	
設備施設	施設管理	20 施設管理について、日常的に点検・補修が行われ、常に適正に管理されている。	生徒	159	125	67	29	21	74.7%
			保護者	63	95	32	12	74	78.2%
			教職員	22	23	4	0	0	91.8%

教育活動	生徒指導	学校生活	21	生徒は学校生活を楽しんでいる。	生徒	179	128	54	19	21	80.8%	
					保護者	109	103	31	18	15	81.2%	
					教職員	27	20	1	0	1	97.9%	
		基本的な生活習慣	22	時間厳守・身だしなみ・挨拶・校則の遵守・整理整頓・清掃など、生徒の基本的な生活習慣の確立のための指導が行われている。	生徒	174	150	47	15	15	83.9%	
				保護者	84	121	35	20	16	78.8%		
				教職員	22	23	3	0	1	93.8%		
		面談	23	面談を通して個々の生徒に寄り添い、生徒と教員の信頼関係のもとに課題が共有され、問題があれば迅速に報告されている。	生徒	169	132	55	24	21	79.2%	
				保護者	132	91	29	14	10	83.8%		
				教職員	29	18	0	0	2	100.0%		
		組織的対応	24	問題行動の防止に向け早期指導を行うとともに、生徒指導に組織的に対応する体制がある。	生徒	151	127	66	28	29	74.7%	
				保護者	85	93	45	25	28	71.8%		
				教職員	31	17	0	0	1	100.0%		
		進路指導	意識の向上	25	生徒の適性に応じて個々の興味・関心を引き出し、個性と学年に応じた進路指導・キャリア教育が実施されている。	生徒	172	143	50	11	25	83.8%
				保護者	77	105	41	15	38	76.5%		
				教職員	35	11	0	0	3	100.0%		
		情報の活用	26	生徒・保護者への説明会、外部講師による講演、大学との交流など、さまざまな進路行事を通して情報提供が行われている。	生徒	166	143	56	14	22	81.5%	
				保護者	71	94	43	20	48	72.4%		
				教職員	39	9	0	0	1	100.0%		
		個別指導	27	生徒の学習到達度を正確に把握し、模試・考查などの客観分析とPDCAを行わせる進路指導が行われている。	生徒	165	146	61	12	17	81.0%	
				保護者	89	108	36	17	26	78.8%		
			教職員	34	12	1	0	2	97.9%			
	授業	質的向上	28	教員は、各教科のコース別到達目標に即して、わかりやすい授業の工夫と改善を心がけている。	生徒	174	139	56	12	20	82.2%	
			保護者	48	121	55	27	25	67.3%			
			教職員	33	14	0	0	2	100.0%			
	きめ細やかな指導	29	生徒は学習への取り組みや到達度を振り返り、適切なアドバイスを得ている。また宿題・提出物等の管理も行き届いている。	生徒	156	140	67	22	16	76.9%		
			保護者	63	106	59	30	18	65.5%			
			教職員	32	13	1	0	3	97.8%			
	個別最適化	30	各自の目標や到達度に応じて自主的に適切な課題を選んで取り組むという、個別最適化学習の体制が整っている。	生徒	173	138	61	12	17	81.0%		
			保護者	63	116	48	14	35	74.3%			
			教職員	34	13	0	0	2	100.0%			
	探究活動	31	探究活動が生徒の興味関心を喚起し、主体的対話的な深い学びが成立している。	生徒	149	142	67	22	21	76.6%		
			保護者	55	96	68	24	33	62.1%			
			教職員	29	17	1	0	2	97.9%			
	グローバル教育	32	グローバル化の時代に対応した本校ならではの教育活動が実施されている。	生徒	153	129	70	25	24	74.8%		
			保護者	75	116	36	21	28	77.0%			
			教職員	39	9	0	0	1	100.0%			
	人権教育	33	生徒の人格が尊重され、平和を希求し人権侵害や差別に立ち向かう態度を育む実践が行われている。	生徒	158	138	63	17	25	78.7%		
			保護者	76	103	31	20	46	77.8%			
			教職員	30	18	0	0	1	100.0%			
	SDGsと社会貢献	34	SDGsを念頭におき、社会貢献や環境保全活動とともに、日々のごみ分別・資源回収などが実践されている。	生徒	150	153	60	17	21	79.7%		
			保護者	60	104	63	20	29	66.4%			
			教職員	33	13	2	0	1	95.8%			
	情報教育	情報モラ	35	情報の発信に伴う責任など、情報モラル面での教育が十分に行われている。	生徒	160	152	61	10	18	81.5%	
					保護者	75	103	43	12	43	76.4%	
					教職員	31	14	2	0	2	95.7%	
	その他	カウンセリング体制	36	不登校の生徒や心的問題を抱える生徒に、カウンセラーの支援体制がある。	生徒	178	129	47	15	32	83.2%	
				保護者	129	86	12	5	44	92.7%		
				教職員	42	6	0	0	1	100.0%		
		クラブ活動	37	クラブ活動の役割を重視し、より多くの生徒が参加できるような体制が整えられている。	生徒	225	88	46	26	16	81.3%	
				保護者	126	93	26	11	20	85.5%		
				教職員	41	7	0	0	1	100.0%		
		生徒会活動	38	生徒会活動が生徒主体で活発に行われ、社会に積極的に参画する意欲が育まれている。	生徒	150	131	61	21	38	77.4%	
			保護者	—	—	—	—	—	—			
			教職員	32	14	2	0	1	95.8%			
	読書教育	39	図書館が充実し、朝の読書・読書講演会・ピリオバトルなど、読書を促すための行事やしゅくみがある。	生徒	160	136	64	16	25	78.7%		
			保護者	98	103	26	7	42	85.9%			
			教職員	33	13	2	0	1	95.8%			
	学校行事	40	それぞれの学校行事が年間指導計画の中に位置づけられ、生徒が積極的に参加できるように工夫されている。	生徒	184	130	52	17	18	82.0%		
			保護者	119	101	25	12	19	85.6%			
			教職員	37	11	0	0	1	100.0%			
	進路指導	41	卒業後の進路に満足している。 (高3・2回目の質問項目)	生徒	51	23	6	0	7	92.5%		
			保護者	54	11	4	0	8	94.2%			
			教職員	—	—	—	—	—	—			